

6.

教育プロジェクト

1) 専任・特任教員担当講義

2) 2019 年度修士論文博士論文要旨

▶ 2019 年度 IGS 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年）

〔主題と目標〕博士後期院生を対象に研究発表と論文執筆を目的とするゼミ。期末には研究論文を1本完成させることを目的とする。

〔科目名〕ジェンダー学際研究論文指導（通年）

〔主題と目標〕ジェンダー学際研究専攻のドクター院生を対象に論文指導を行う。

〔科目名〕特別講義（博士後期課程）（後期集中）

〔主題と目標〕生活を持続的に成り立たせる生活保障システムは、政府と民間の制度・慣行の編成、そしてジェンダーのあり方によっていくつかのタイプに分かれる。日本のシステムはどんな特徴をもつのか、時系列と国際比較により明らかにし、近年の変容を考える。講義は演習の形でいき、重要文献の考証、参加者の研究発表を含めて進める。

大橋史恵（准教授）

〔科目名〕ジェンダー政治経済学（前期）

〔主題と目標〕国際社会学やフェミニスト経済学のなかの移動とジェンダーに関わる課題を扱ったテキストの講読を通じて、フェミニスト・アプローチに基づく実証的社会科学研究の手法について学ぶ。

〔科目名〕ジェンダー政治経済学演習（後期）

〔主題と目標〕国際社会学やフェミニスト経済学のなかの再生産領域とジェンダーに関わる課題を扱ったテキストの講読を通じて、フェミニスト・アプローチに基づく実証的社会科学研究の手法について学ぶ。

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕ジェンダー社会科学論（通年不定期）

〔主題と目標〕開発・ジェンダー論コースの必修科目。指導教員から修士論文執筆の指導を受け、コースの修論報告会で発表を行う。また、3コース合同修論報告会への出席を課す。

〔科目名〕ジェンダー立法過程論（後期）

〔主題と目標〕ジェンダー平等な制度作りにおいて、有力な手段となりうる法政策に注目する。ジェンダー平等実現のための法政策の概念、理論、政策決定のアクター、政策のインパクトについて学び、日本のジェンダー政策の事例を見ていく。90年代後半以降のジェンダー関連立法（DV法策定や改正、民法、刑法改正）を中心に検討することで、これからのジェンダー法政策過程のあり方を展望する。

〔科目名〕フェミニズム理論の争点（前期）

〔主題と目標〕初学者を対象に、ジェンダー概念の基礎的知識を含め、1990年代以降のフェミニズム理論の新たな発展期における重要な理論的争点の理解を目的とする。「Gender, Sexuality, and Violence against Women and Minorities」をテーマに文献購読、ゲスト講義、グループワークを行う。特にSexualityに関する議論がジェンダー概念とどう交差するのか歴史的、理論的に考察し、今日世界的に広がっているジェンダー・セクシュアリティ・ポリティクスのあり様について検討する。

〔科目名〕フェミニズム理論の争点・演習（後期）

〔主題と目標〕前期に続き、フェミニズムやジェンダー研究の基礎的概念や知識を理解した上で、1990年代以降フェミニズム理論の新たな発展期以降取り上げられてきた重要な理論的争点に取り組む。

〔科目名〕開発・ジェンダー論特論（後期）

〔主題と目標〕2019年度のテーマは「ジェンダー視点で問い直す政治学研究1・2」。研究方法やアプローチの問題を講義し、全体としてジェンダーの視点に立った研究の広がり可能性、ならびに開発研究とジェンダー研究の接点を提示する。

〔科目名〕 国際社会ジェンダー論演習（前期不定期）

〔主題と目標〕 開発とジェンダーにかかわる課題群の分析の方法や視座に基づき、海外及び国内のフィールド調査から得たデータの分析する能力を培う。文献を批判的に読み解くとともに、各自の研究論文を効果的にプレゼンテーションする練習など、研究者として必要な基本的な能力を身につける。

〔科目名〕 特別講義（博士前期課程）（後期集中）

〔主題と目標〕 生活を持続的に成り立たせている生活保障システムは、政府と民間の制度・慣行の編成、そしてジェンダーのあり方によって、いくつかのタイプに分かれる。日本のシステムはどのような特徴をもつのか、時系列と国際比較により明らかにし、近年の変容を考える。講義は演習の形で行い、重要な文献の考証、参加者の研究発表を含めて進める。

大橋史恵（准教授）

〔科目名〕 ジェンダー基礎論（前期）

〔主題と目標〕 ジェンダー社会科学専攻の基本講義として、3 コースの専任教員がジェンダーの視点・方法の多様性とその有効性を提起する（専攻必修科目）。

〔科目名〕 ジェンダー社会科学論（通年不定期）

〔主題と目標〕 開発・ジェンダー論コースの必修科目。指導教員から修士論文執筆の指導をうけ、コースの修論報告会で発表を行う。また、3 コース合同修論報告会への出席を課す。

〔科目名〕 ジェンダー社会経済学（前期）

〔主題と目標〕 フェミニズムに基づく社会科学研究（とりわけポストコロニアリズムとジェンダーに関するもの）の基礎的な文献講読を通じて、ジェンダー秩序を生きる主体の具体的状況について批判的に分析することを目指す。

〔科目名〕 ジェンダー社会経済学演習（後期）

〔主題と目標〕 批判的な文献の読みを通じて、社会経済構造の変動とジェンダーに関わる理論的・実証的研究や、フェミニスト・アプローチによる現状分析の手法を学ぶ。

板井広明（特任講師）

〔科目名〕 国際社会ジェンダー論（後期）

〔主題と目標〕 AIT ワークショップ（本報告書 107～113 頁参照）参加者に向けて、将来、NGO や国際機関で国際協力の仕事につくことや、国内外を問わず男女共同参画推進諸機関で働くこと、あるいは研究者としての力を培うことを希望する人材の育成を意図して、国際社会におけるジェンダーの問題を、途上国支援や持続可能な教育などを実践している現場の声を聴きつつ、理論的に検討するのが主題である。異文化におけるジェンダー概念や平等概念、フェミニズム的視点の有効性を再検討し、各自のジェンダー理解をブラッシュアップすることが目標である。

《人間文化創成科学研究科博士課程共通》

ジャン・バズレイ（特別招聘教授）

〔科目名〕 男女共同参画国際演習 I（前期）

〔主題と目標〕 THE MODERN GIRL IN JAPAN: FILM, FASHION, LABOR & SPORTS

Japan's Modern Girl inspired envy and fear in the 1920s and 1930s. Advertisements showed her enjoying city life! She modeled new fashions. She danced, played tennis, and went to the movies. She took up new kinds of work and romance. But the reality of young women's lives in the city was not always so rosy. Novels and films created stories—funny and tragic—about the Modern Girl. This cultural studies seminar explores the fantasy and reality of Japan's Modern Girl in various media: We look at lots of images—photographs, advertisements, paintings. We talk about 1930s movies and stories. We read research on the lives of working women. Using all this evidence, we ask the following questions about the Modern Girl.

《学部》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 ジェンダー 8 政治・政策とジェンダー（前期）

〔主題と目標〕 現代日本及び諸外国の政治制度、選挙、女性の政治的代表性を高めるための取り組みなどについてジェンダー視点から学習し、日本の政治過程や制度に関する基礎的知識を獲得するとともに、我々の日常生活に及ぼす政治の影響、政治に女性が参加する意義について理解することを目指す。

大橋史恵（准教授）

〔科目名〕 グローバル化と社会（後期）

〔主題と目標〕 ①グローバル化という現象について知見を深める。とりわけジェンダーの視点からこの現象を批判的に考察する。

②日本および世界の諸地域における具体的な社会秩序、および個をとりまく社会関係の変化を、グローバル化という文脈においてよりよく理解する。

〔科目名〕 グローバル化と労働Ⅱ（前期）

〔主題と目標〕 グローバル化と労働に関わる理論的文献を全員で講読し、討論する。とりわけフェミニスト・アプローチに基づく研究の蓄積に積極的にふれ、グローバル化という現象がジェンダー、エスニシティ、ネーション、階級、セクシュアリティ等の差別の交差性（インターセクショナリティ）と不可分に結びついていることを理解する。

〔科目名〕 グローバル文化学総論（前期）

〔主題と目標〕 「テロ」事件の頻発、イギリスのEU離脱、トランプ大統領の誕生など、グローバル化がもたらす負の側面がクローズアップされる中で、移民や難民を排除したり、ナショナルな枠組みに閉じようとする傾向が強まっている。異質な他者を排除するのではなく、異なる文化を持つ他者と協働しながら、真の多文化共生社会を創っていくことは可能か。そのためには何が必要なのか？現代世界を生きる上で不可避の問いに、グローバル文化学環の教員が、それぞれの立ち位置から応答し、提言する。

《英語によるサマープログラム 2019》

《人間文化創成科学研究科博士課程共通》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 Special Lectures in Humanities and Sciences III

〔主題と目標〕 サマープログラム（文化社会コース）のサブコース 1 Gender Equality and Leadership として開講。英語で講義と運営を行う。社会の基本構成を成す原理であるジェンダーとリーダーシップについて、考古学、教育学、政治学、地理学、歴史学などさまざまなアプローチから、日本やアジア諸国の事例を中心に多面的に学習する。

《学部》

申琪榮（准教授）

〔科目名〕 Summer Program in English III

〔主題と目標〕 サマープログラム（文化社会コース）のサブコース 1 Gender Equality and Leadership として開講。英語で講義と運営を行う。社会の基本構成を成す原理であるジェンダーとリーダーシップについて、考古学、教育学、政治学、地理学、歴史学などさまざまなアプローチから、日本やアジア諸国の事例を中心に多面的に学習する。

▶ 2019 年度大学院（人間文化創成科学研究科）

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

ジェンダー研究所はジェンダーの視点から学際的・国際的な研究を推進する次世代の研究者育成も行っている。IGS 所属教員の指導のもと、2019 年度は以下の院生が博士前期課程ならびに博士後期課程を修了した。

博士前期課程（ジェンダー社会科学専攻）修了者

【氏名】松田 綾希子

【指導教員】申 琪榮（IGS 准教授）

【修論タイトル】災害報道におけるジェンダー問題の考察——東日本大震災の新聞記事の分析から——

【要旨】

日本を含む世界各国の災害で、貧困、高齢化、地域格差など社会構造の脆弱性が顕在化し課題となっているが、ジェンダー格差もそのひとつである。災害をきっかけに、性別役割が強調される、ジェンダーに基づいた暴力が顕在化する、といったことがこれまでの研究でも報告されてきた。本研究は、これら「災害とジェンダー」の先行研究に依拠し、日本の災害報道がどれだけジェンダー・多様性に配慮して行われたのかを明らかにする。

代表的な全国新聞社の 2 紙を対象に、東日本大震災の発生翌日から 2 週間の「社会面」と「生活面（家庭面）」の記事を内容分析した結果、2 社ともジェンダーステレオタイプを強調するような内容が多いこと（例えば、女性が登場する時は母親が多く、男性は専門職やリーダーポジションについている場合が多い）、署名記事で分かる記者の男女比率においても女性が少ないこと、社会的なマイノリティの記事が極めて少ないことが明らかになった。

博士後期課程（ジェンダー学際研究専攻）学位取得者

【氏名】本山 央子

【指導教員】申 琪榮（IGS 准教授）

【博論タイトル】冷戦後安全保障の再構築と国際ジェンダー平等規範

——女性・平和・安全保障アジェンダの形成と日本による受容——

【要旨】

国連安全保障理事会における女性・平和・安全保障（WPS）に関する初めての決議である「安保理決議 1325 号」（2000 年）と、その後採択された同分野の安保理決議 10 件（2019 年 10 月現在まで）の内容が、日本の国内アクションプランに受容される過程を分析した。

国際政治学の先端理論である Weber らのポスト構造主義を分析ツールとして、なぜ WPS 関連の一連の安保理決議が、国際フェミニスト運動が目指した脱軍事化の変革を起こすことができなかったのか、また、なぜ日本の国内アクションプランもフェミニスト平和運動の期待からは程遠いものとなったのかを、90 年代以降の日本の外交青書などを用いて分析した。

国際ジェンダー規範の発展過程において、紛争地の女性を外からの救援者によって救われるべき存在と構築され、第一世界（グローバルノース）の国々は「女性の人権を守る」資格のある優越な立場を再確立する結果となった点、日本の国内アクションプランはそれら先進国の一員になるべく男性的な主権を確立させようとした動機が働いた点を明らかにし、その結果、国内アクションプランには、慰安婦問題や脱軍事主義、国内のジェンダー不平等問題などが欠落し、海外での役割のみを強調するものになったと結論付けた。

● 申琪榮 IGS 准教授が副査を務めた 2019 年度学位取得者と博論タイトル

ジェンダー学際研究専攻 相川頌子「男性性と有配偶者の家事・育児遂行——ケアする男性性に着目して——」
ジェンダー学際研究専攻 雑賀葉子「紛争後復興期のジェンダー・クォータ——東ティモール女性のネットワーク化——」
上智大学グローバル・スタディーズ研究科グローバル社会専攻 堤優子/安藤優子「国会における女性過少代表の分析：自民党の政治指向と女性認識の形成」